

ま え が き

道立病院はこれまで、道民医療、福祉の向上を図るための公共性の確保とともに、企業としての経済性の発揮に努めながら、広域医療や精神などの特殊医療、循環器疾患等や小児疾患に対する高度・専門医療の機能を担い、地域医療の確保に努めてきています。

しかしながら、その経営においては、本道の深刻な医師不足の中、多くの常勤医師の欠員を抱え、見込んでいた収益を確保できないなど、依然として極めて厳しい経営状況となっていたため、平成25年3月に「新・北海道病院事業改革プラン」を策定し、安定的で継続した地域医療を提供する体制の構築を目指して、各病院と道立病院室が一体となって全力で取り組んでいるところでございます。

平成26年度はそのプラン2年目であり、9月にはプラン評価委員会から「組織運営の柔軟性・自律性が見込める地方公営企業法の全部適用への移行について早急に検討を進めるべきである。」との提言を受け、経営形態の改善へ向けた検討を進めた年度でもありました。

また、東胆振・日高地域における結核及び結核後遺症の患者に対する医療を担ってきた道立苫小牧病院を平成25年度末で廃止としたため、病院数が一つ減り、6病院でのスタートとなった年度でありました。

今回作成いたしました平成26年度年報をご覧になっていただき、皆様に道立病院の現状を少しでも理解していただければ幸いです。

平成28年2月

北海道保健福祉部地域医療推進局道立病院室長